

## (2) メディア接触時間と生命感覚

図6-3「人や動物がけがをしたりすると自分も痛い気がしますか」という質問に対して「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 64.3%、6時間以上の場合 33.3%、図6-4「生きていても仕方がないと思ったことがありますか」という質問に対して「全くない」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 75.0%、6時間以上の場合 51.3%といった結果である。いずれも生に対する肯定的な意識はメディア接触時間によって異なることがわかり、長時間接触の問題性がうかがわれる。

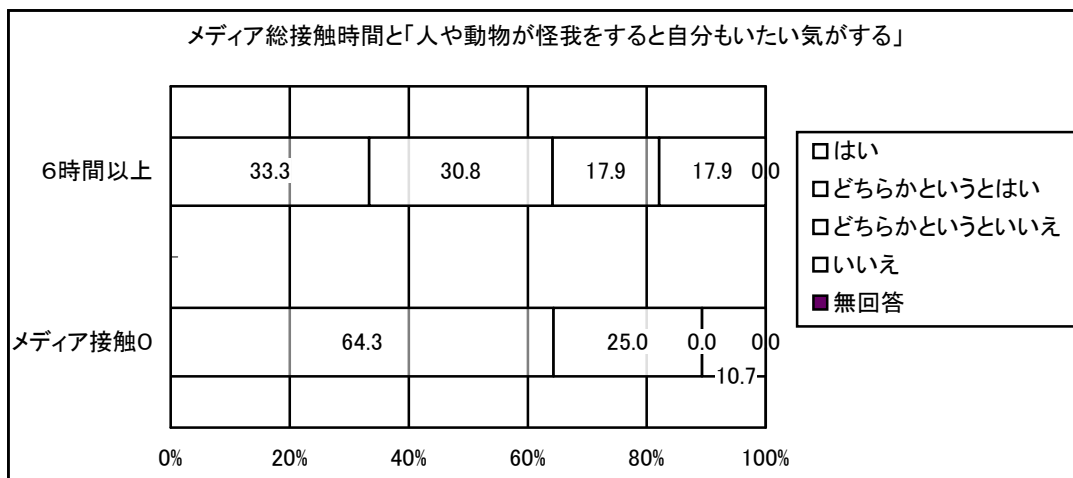


図 6 - 3

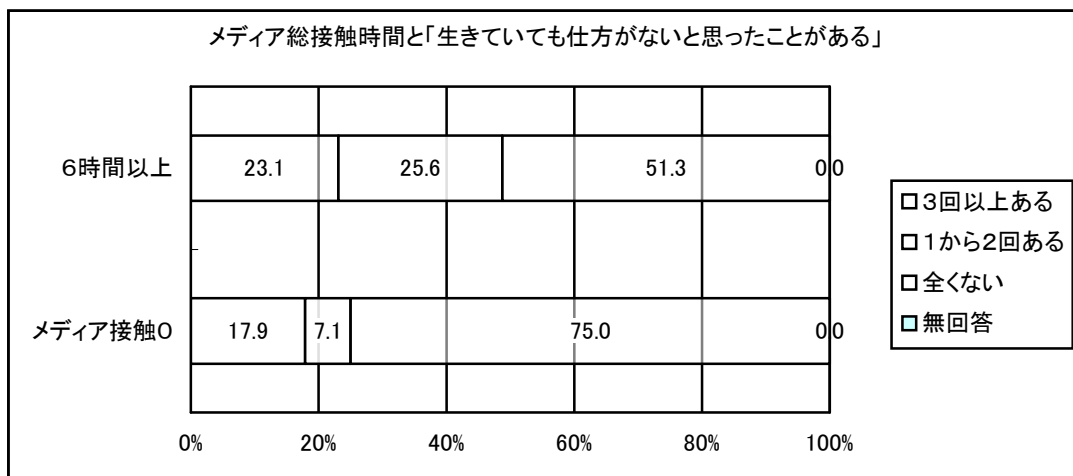


図 6 - 4

### (3) メディア接触時間と人間関係・コミュニケーション

図6-5 「友だちとうまくやっていく自信がありますか」という質問に「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 78.6%、6時間以上の場合 43.6%、図6-6 「たくさんの人の前では言いたいことがうまく言えない」という質問に対して「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 21.4%、6時間以上の場合 38.5%といった結果である。

長時間メディア接触が人間関係づくりの機会をさまたげていることを示唆している。

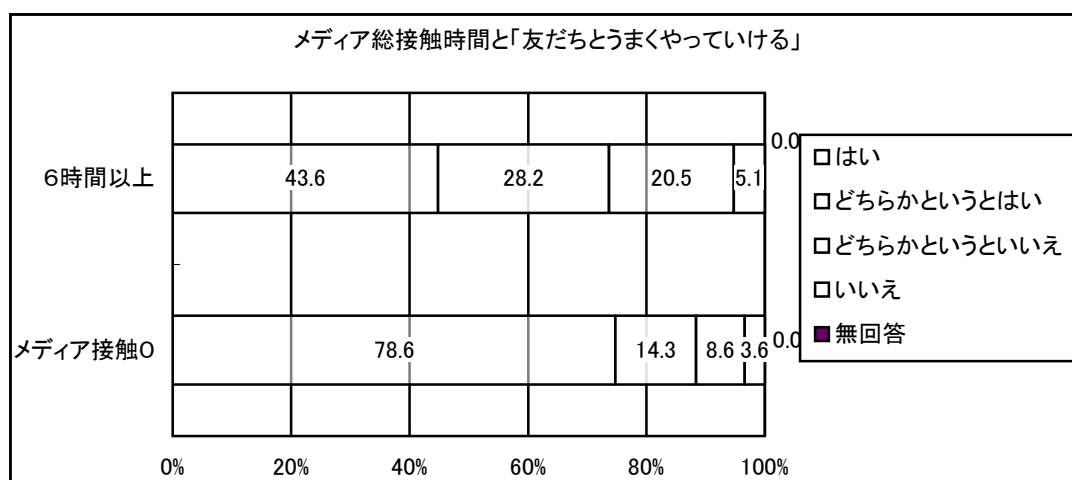


図 6 - 5

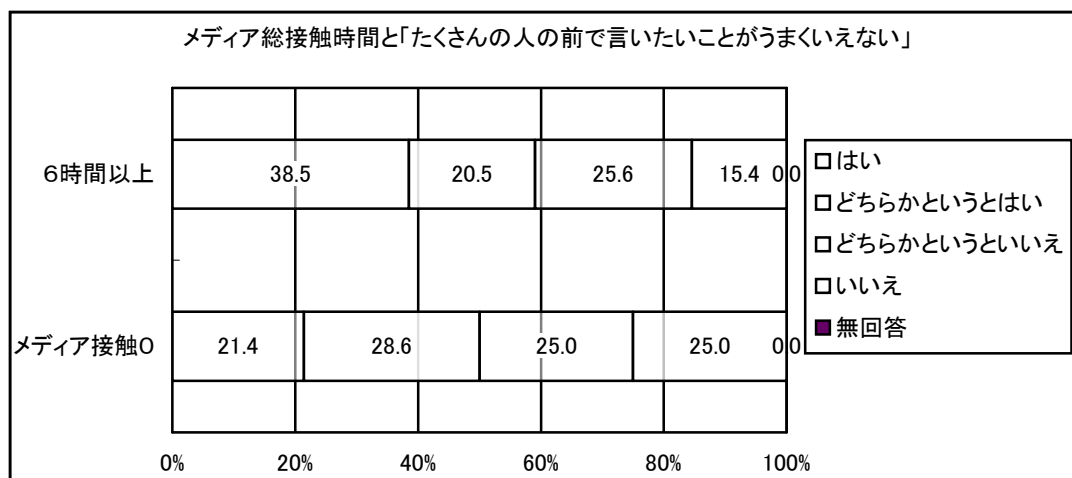


図 6 - 6

#### (4) メディア接触時間と利他性・役割意識

図6-7「人のために何かしたいと思っていますか」という質問に対して「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 67.9%、6時間以上の場合 30.8%、図6-8「クラスで決められた仕事は責任を持ってする方ですか」という質問に対して「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 44.4%、6時間以上の場合 35.6%である。社会性をよりよく育む機会をメディアの長時間接触が妨げている可能性がうかがわれる。

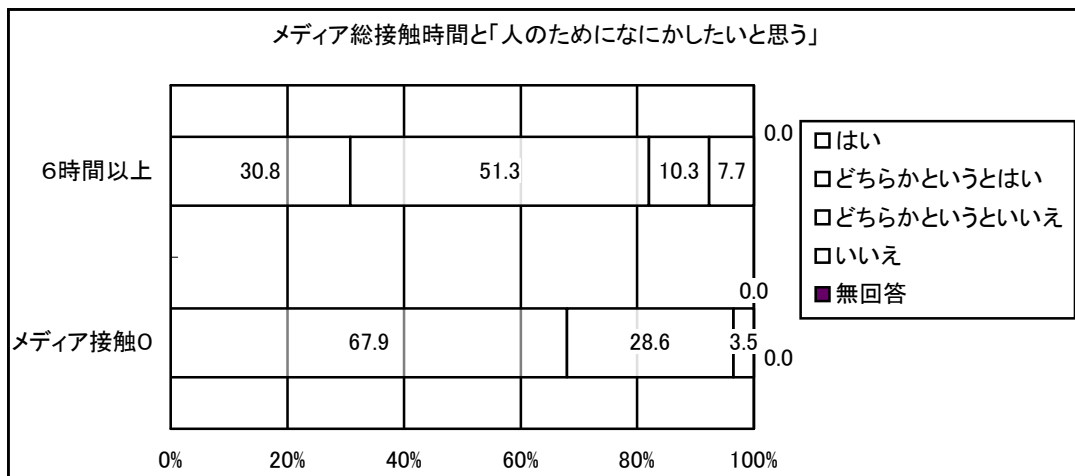


図 6 - 7

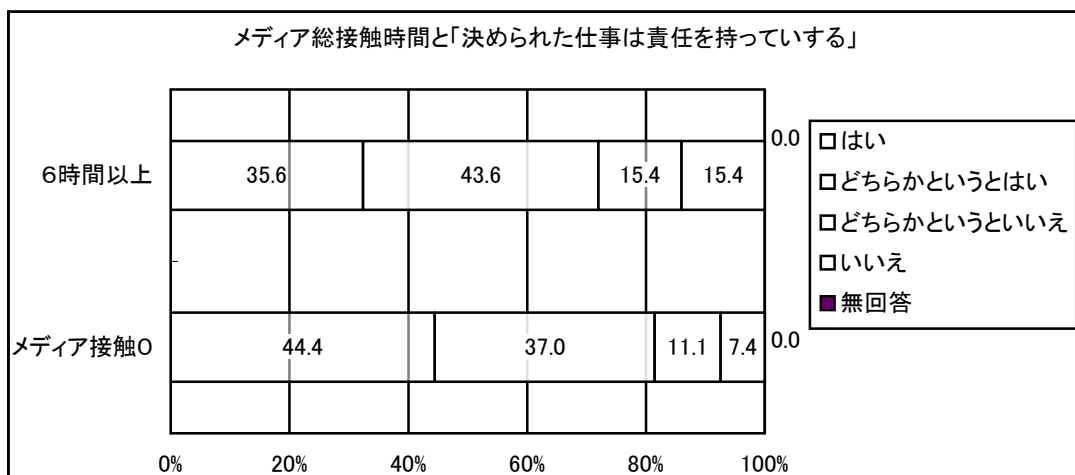


図 6 - 8